

かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ

所在地：南巨摩郡富士川町蹴沢771-2

TEL：0556-22-8154

FAX：0556-22-8144

HPでも御覧いただけます。URL <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

☆ 峡南地区「子育て学習会」の開催 ☆

山梨県立大学教授 高野牧子先生

南ブロック（2月16日：身延高校輝葉館）、北ブロック（2月18日：富士川町蹴沢福祉センター）の2度にわたって、山梨県立大学教授、高野牧子先生を講師にお迎えして、峡南地区「子育て学習会」を開催しました。テーマは「心・ふれあう・動きでコミュニケーション～子どもと楽しむ身体表現遊び～」でした。



高野牧子 先生

幼児期の運動指針（文部科学省）によると、「幼児は、様々な遊びを中心に、毎日60分以上、楽しく身体を動かすことが大切である」とされています。その際、①多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れること、②楽しく体を動かす時間を確保すること、③発達の特性に合った遊びを提供すること、この3つが要点となります。幼児期の様々な遊びは、運動の楽しさを体感し、運動好きの子どもを育てることにつながります。また、幼児期は、神経系の発達に伴い、運動をコントロールする能力が顕著に向上する時期であるため、生涯にわたる運動能力の基盤となる多様な動きを獲得するとともに、ぎこちない動きから巧みな動きができるようになります。（幼児期から10歳頃までが運動能力獲得の敏感期）そのため、幼児期においては、様々な遊びを楽しむ中で、「できた」「やった」という自己有能感を育てていくことが求められています。幼児期ならではの子どもとのふれあいを大切にし、意欲を育てる効果的な声かけ・支援も大事にしながら、たくさんの遊びを楽しんでほしいです。（以上、講義の概要）



講義の後に、保育現場や家庭で楽しめる身体表現遊びを数多く紹介していただきました。動き遊びとして、「はじはじはじまるよ」「そうっとさわってみようかな」「ちっくんハチさん」「ハイタッチ・ゲーム」「ぴよよ〜んゲーム」、親子体操として「お母さんのお舟できるかな」「お母さんのひざに立ってみよう」「お母さんのトンネル」「ごろりんぱ」「そり遊び」、表現遊びとして「あいうえおにぎり」「だるまさんが」「もも太郎」「パンぱんだ」、その他新聞紙や伸縮布を使った遊びなどです。先生の軽快な指示に従いながら、参加者全員で楽しく身体表現遊びを学んできました。終始和やかな雰囲気の中、心地よい汗を流し、1時間20分ほどの時間が短く感じられました。参加された方々から、「すぐに試してみたい」、「大人も一緒に楽しめる」などの声が多く聞かれ、満足度の高い、有意義な学習会となりました。

【南ブロックの様子】



【北ブロックの様子】



かけはし142号の誌面

- P1 子育て学習会
- P2 連載特集 峡南地域の食材 No.14
- P3 峡南地域中学生思春期体験学習、増穂商業高校子育て体験学習
- P4 英語教育強化地域拠点事業成果発表会、身延中地域の民話

☆☆連載特集 『峡南地域の食材』No. 14

身延町「味噌」と食改さん



【下部寒仕込み味噌づくり体験】

「道の駅しもべ」において、今年で17年目となる「下部寒仕込み味噌づくり体験」が行われました。これは、身延町商工会が地産地消を推進しながら、食に対する本物志向と安全に対応するために始めたものです。身延町の特産でもある曙大豆や青大豆を使って、天然醸造味噌づくりを多くの方々に体験してもらっています。現在は、身延町と身延町商工会が3町合併後の新たな観光振興ビジョン実現に向けて立ち上げた推進母体、「NPO法人みのぶ観光センター」が、12月から2月にかけて行っています。取材に行かせていただいた、2月6日（土）にも22名が味噌づくり体験に臨んでいました。まずは、煮上がった大豆をザルにあけ、専用のミキサーですり潰しました。次に、参加者全員が協力してうちわとしゃもじを使ってまんべんなく冷ましていきます。冷めたところで、各自の分量をボールに分けて塩・麦麴・米麴と丹念に混ぜ合わせていきました。そして、用意された樽に詰め込んで作業は終了しました。仕上がり量は約4kgで、標準家庭（4～5人家族）で約3か月分の量となります。仕込んだ味噌は今年の10月中旬頃行われる予定の蔵出しまで専用の味噌蔵で大切に管理保管してくれます。寒の水を使っての味噌は、味・香りともに一番旨いと言われており、体験に訪れた方々は蔵出しの日が来るのを楽しみにしていました。



ゆであがった大豆



専用のミキサー



協力しながら冷まします



一生懸命混ぜ合わせます



樽に詰めて完成

【身延町の食改さん】

身延町食生活改善推進委員会は、下部町・中富町・身延町の食改を合併し、平成17年4月に発足。川口まつ彥会長を含め現在117名で活動しています。今年度の目標は、①地域の特性にあわせて食育を推進しましょう、②生活習慣病予防についての知識を普及しましょう、③継続した運動が出来るよう地域で普及しましょう④災害時に備える食について学習し、地域に普及しましょう、の4つです。これらの目標を達成させるために、年に3回全会員対象の学習会を開催し、地域の普及に努めています。また、減塩推進活動にも力を入れており、「みのぶまつり」では0.6%のみそ汁を試飲してもらい、家庭のみそ汁と比較してもらいました。

【食改さん学習会】



山田有希子さん

2月3日（水）に、第3回目となる身延町食改さんの学習会が中富すこやかセンターで行われました。今回は減塩をテーマに、身延町役場福祉保健課管理栄養士の山田有希子さんが講師となり、前半は減塩の必要性についての講習を行い、後半は栄養バランスのとれた減塩食の調理実習が行われました。講習では、現在、ヘモグロビンA1c（血糖値）が高い人の割合が峡南地域では63%（県全体では54%）と高いという報告を聞いて、食改さんたちも真剣な表情をみせていました。続いて行われた調理実習では、1食5品（麦ごはん、DHAたっぷりサバのムニエル、ささみとみつ葉のわさび和え、切り干し大根のナムル、バナナと小豆のクリーム春巻き）で、655Kcalの食事を手際よく調理しました。何種類もの食材を使い、栄養バランスがとれていて食改さんたちからも好評でした。今回のレシピは、インターネットの「cookpad」において「身延町×管理栄養士」で検索すると見ることができます。



調理実習



試食会

平成 27 年度峡南地域中学生思春期体験学習

今年度も峡南地域の全ての中学校で、思春期体験学習が実施されました。この事業は、学校・町・保健福祉事務所・教育事務所の4者が協力して実施しています。多感な中学生の時期に子育てについて考え、赤ちゃんとのふれあいを通して生命の尊さを学ぶことを目的として、各校の教育課程にも位置づけられ、今年で17年目を迎えました。11月の三珠中による体験学習を最後に、峡南地域全12校の思春期体験学習が終了しました。この体験学習を実施するにあたり、各校の担当者、各町の福祉保健課・子育て支援課・いきいき健康課、峡南保健福祉事務所の保健師さんが中心となり、綿密な打ち合わせを重ねていき、指導方法や準備品の確認、協力してくれる母子との連絡調整、講話や体験学習の指導など、精力的に進めてくださいました。また、この思春期体験学習のために多くのお母さん・お父さん方に協力していただきました。中学生のために大事な我が子を持って会場まで足を運んでいただいたことに、心から感謝申し上げます。事後アンケート調査の結果をみても、体験学習の意義の深さをあらためて実感するとともに、来年度も引き続き各学校において教育課程に位置づけて取り組んでいただきたいと思います。

《事前学習・ プレ実習風景》



増穂中



南部中



中富中



市川中



市川南中

《体験実習風景》



飯沢中



久那土中



早川中



中富中



下部中



増穂中



市川中



三珠中



六郷中



身延中

増穂商業高校 子育て体験学習

増穂商業高校（若林毅文校長）でも、高校3年生を対象に5年目の「子育て体験学習」を実施しました。高校での継続的な実施は全国でも珍しい取組です。それは、ひとつに全県一区のため地域との連携がとりづらいからだと言われています。しかし、同校では峡南地域の全中学校で思春期体験学習を実施していることを踏まえ、中学・高校と「生命の大切さ」を継続して学習させたいとの視点から、富士川町子育て支援課と連携を図り、教育課程に位置づけて実施しています。グループワークを積極的に取り入れるなど、毎年内容の改善を図って効果的な学習を行っています。生徒達は出産・育児が中学生に比べて近い将来のことと受け止め、真剣な表情で取り組んでいました。



英語教育強化地域拠点事業 成果発表会



2月9日(火)、笛吹スコレーセンターにて、今年度から英語教育の研究強化地域に指定された5市町による「成果発表会」が開催されました。市川三郷町、昭和町、南アルプス市、韮崎市、笛吹市が、文部科学省と県教育委員会から指定を受けています。これは、2020年の新学習指導要領改定に伴い、小学校の英語教育における、早期化(3・4学年の外国語活動の導入)、教科化(5・6学年の英語4領域指導・評価の導入)が図られることになっているため、その円滑な導入と指導技能の向上のために、先行研究の必要があるからです。5市町ともに、学級担任と専科教員・ALT・地域ボランティアとの連携をとりながら、地域の特性を生かした英語教育の推進に取り組んでいました。

市川三郷町教育委員会では、今年度、小中高地区連絡協議会を開催する中で「グローバル化する社会

「授業づくり」

1 小学校

(1)担任主導授業

- ・ALTとの打ち合わせの充実
- ・クラスルームイングリッシュの積極的使用

(2)指導法の工夫

- ・発達段階に合わせた教材づくり
- ・慣れ親しませる活動の充実
- ・帯活動の効果的な位置づけ

(3)授業力を高めるための学習会

- ・指導者の意識改革
- ・指導法の理解
- ・毎週の英語研修による英語運用能力の向上

2 中学校

(1)インタラクティブな授業

(2)スパイラルに扱う表現活動

- ・英語使用量を増やす工夫
- ・3年間を見通したパフォーマンステストの実施

3 高等学校

(1)英語による授業の展開

(2)自己表現活動につながる授業

- ・英語に対する関心・意欲UP

「つながる」

(1)意識調査の実施

- ・小中高共通項目で年2回実施

(2)相互授業参観

- ・授業づくりのヒントの交流
- ・小中・中高をつなぐ指導の工夫

(3)交流活動

- ・小中学校英語交流会、英語に対するモチベーションの向上
- ・中から小への出前授業、小中連携を考えた授業づくりのヒント書くことの指導法の理解
- ・高から中への出前講座・交流会英語学習に対するやる気UP

に対応できる人材の育成を目指して」というテーマを設定し、市川小・市川東小・市川中・市川高等学校の相互交流を重ねながら「英語教育への意識と理解を高める」研究を推進してきました。小学校での目標について、3・4学年の「外国語活動型」ではコミュニケーション能力の素地を養う、5・6学年の「教科型」では、初歩的な英語の運用能力を養うとされています。中学校での目標は簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う、高等学校での目標は情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う、となっています。

成果発表会において、市川三郷町の研究内容を発表されたのは市川小学校の 渡邊 菊美 教諭 でした。①授業づくり、②つながる、という2つのキーワードに沿って、研究の成果と課題について、丁寧に報告されました(左の枠内を参照)。発表された後は、会場いっぱい、大きな賞賛の拍手が響きました。その後に講演をされた、山梨大学の田中武夫教授からも、市川三郷町の取組は、小中高の連携を重視した素晴らしい研究実践であると、高い評価をいただくことができました。

地域の民話を紙芝居・朗読劇で 身延中学校

身延中学校(井上敬典校長)では、「劇団久遠の光ファイナル」と称して、学区内4地域に伝わる民話を、紙芝居と朗読劇にて順に発表しました。図書委員会の呼びかけに、各地区に住む生徒有志が応じる形で、この活動が実現しました。身延地区の「柿の葉書籍」、豊岡地区の「へだまの段」、大河内地区の「建長寺さん」、下山地区の「しのめの滝と長者屋敷」です。3月1日は、最後となる下山地区の発表でした。その日は、下山甚句保存会の望月修さんも学校を訪れ、生徒たちと共に自慢の歌声を披露しました。



司会を務めた図書委員長の池上亜貴子さんは、まとめの言葉の中で、自分の住む地区や町に、興味や愛着をもってもらえたらうれしいと述べられました。生徒による手作りの朗読劇、閉校を前に、心に残る素晴らしい行事となりました。

・ご愛読ありがとうございました・

地域教育情報誌「かけはし」をご愛読いただき、心より御礼申し上げます。これからも地域の素晴らしい所をお伝えしていきますので、ご愛顧いただけますようお願いいたします。